

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書12章13～21節＞

貪欲のおろかさを教えている分かりやすい話のようで、奥が深い話。

1 前の3つの話との関係は？ 急に世俗的な話に。その違いは？

貪欲の愚かさについて(15)の分かりやすい話のように思えますが、この前の三つの話(12:1-12)と比較しますと違和感を覚えます。前の三つはバラバラの話のようですが、共通していることがあります。どれも根底に神様が大事な存在として覚えられていることです。しかし、今日の個所の話にはそれが欠けている、それが違和感を生んでいるのです。

2 (13-14) イエス様の重要性を間違って理解してはならない。

突然イエス様に語りかけた人は、イエス様を「先生」と呼び、「この方ならできると信じてイエス様に願い事を申し出ました。ですから、この人なりにイエス様を重んじていたのです。しかしイエス様は、「だれがわたしを、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか」と言われました。裁判官や調停人は重んじられる存在です。しかしそれはこの世の問題を解決することにおいて重んじられているのであり、イエス様は「私は違う。間違ってはならない」と言われているわけです。それを理解させるために語られたのがある金持ちの例え話です。何を聞き取らなければならぬのでしょうか。

3 (15-21) 「愚かな者よ」の「愚か」で考えなければならないことは？

分かりやすく色々なことを教えられる例え話です。まずこの金持ちが他の人、特に貧しい人のことなど一切考えていないことに気づきます。すると、彼が自分の頭で考えて自画自賛しているアイデアも色あせて来ます。実際、その夜に死ぬなら全ては無駄に終わり、他の人と分け合うべきであったのだと教えられます。しかしこの話から聞き取らなければならぬもっと大事なことがあります。イエス様が言われた「愚かな者よ」で考えなければならない「愚かさ」は何でしょうか？ 彼の考えること、すること、その全てに神様が抜けていたことではないでしょうか。その姿言動が語られ続けた後、最後の20節で初めて「神」が登場して彼の行き着く先が語られ、21節でイエス様は「神」を出して「自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりに」と告げられたのです。最初にイエス様に語りかけた人への答えがこの話であった理由もこれで分かります。命も所有物も神様から与えられたことを思い、死の先も御手の中にある神を重んじて生きることが愚かさの逆なのです。